

皮膚科領域における Cefepime の臨床的検討

古江 増隆・北原比呂人・金子 健彦・高橋 毅法

鳥居 秀嗣・松山 友彦・石橋 康正

東京大学医学部皮膚科学教室*

新セフェム系抗生物質 cefepime を 8 例の浅在性化膿性疾患の患者に 1 回 0.5 または 1 g を 1 日 2 回、4~26 日間投与し、その臨床効果および安全性について検討した。その結果、各疾患に対する臨床効果は、二次感染 6 例では著効 3 例、有効 1 例、やや有効 2 例、伝染性膿痂疹および膿皮症各 1 例はともに著効であった。副作用に関しては自他覚的なものはなく、臨床検査値異常変動は 1 例に GOT 上昇を認めた。

Key words : Cefepime, 浅在性化膿性疾患, 臨床的検討

Cefepime (CFPM) は Bristol-Myers 研究所株式会社東京研究所で開発された注射用セフェム系抗生物質である。本剤はセフェム骨格の 7 位に α -methoxyimino-aminothiazole 基を有し、3 位の N-methylpyrrolidinium 基と 2 位の carboxyl 基との間で分子内塩を作るベタイン構造を有する。

本剤は β -lactamase に対し安定で¹⁾、抗菌スペクトルはグラム陽性菌から陰性菌まで幅広く、強い抗菌活性を示す^{1,2)}。

また、ヒトに静注した後、高い血中濃度が得られ、皮膚滲出液中にも良好な移行性を示す³⁾。

今回我々は、本剤の浅在性化膿性疾患に対する臨床的検討を行ったのでその成績を報告する。

1989 年 2 月から 9 月までに東京大学医学部附属病院を受診した患者で浅在性化膿性疾患と診断され、同意の得られた 8 例を対象とした。

CFPM 0.5 g (力価) もしくは 1 g (力価) 含有のバイアルを使用し、1 回 0.5 g もしくは 1 g を 1 日 2 回点滴静注した。投与期間は原則として 3 日間以上とした。本剤の効果判定に影響を及ぼす可能性がある薬剤の併用は避けた。

自他覚的所見は原則として毎日観察した。

また、病巣部膿あるいは滲出液など検体を採取可能な例については、検体を東京総合臨床検査センター研究部に送付し、細菌の分離同定および最小発育阻止濃度 (MIC) を日本化学療法学会標準法に従い判定した。

自他覚的副作用は原則として毎日観察した。

臨床検査は血液、肝機能、腎機能、尿所見等を本剤

投与前・後に実施した。

CFPM を投与した 8 例の症例一覧を Table 1 に示した。

症例 1 は、2 日前に発症した熱傷の二次感染で、本剤 1 回 0.5 g 1 日 2 回を 5 日間投与により自他覚的所見が消失し、著効と判定した。

症例 2 は膿皮症切除植皮術後の二次感染で、ofloxacin と cefuroxime axetil を投与するも効果不十分のため本剤に変更した。9 日間投与したところ、症状は軽度残存したものの細菌の陰性化および化膿性病変の新生を認めなかったため著効とした。本剤投与 5 日目の検査で GOT の軽度上昇 (15 → 48 → 17) が認められたが、無処置で軽快した。

症例 3 はリンパ管肉腫の一部が二次感染を発症した症例で、病巣から分離された *Staphylococcus aureus* はメチシリン耐性株で本剤の MIC 値も $>100 \mu\text{g/ml}$ と高度耐性であった。本剤を 7 日間投与したが、自発痛が中等度残存し、やや有効とした。

症例 4 は右足底部外傷後の二次感染で、投与 9 日後には治癒し、著効とした。

症例 5 は左下腿皮膚 T 細胞リンパ腫の皮疹が急に拡大し、圧痛、紅斑が出現した症例で、本剤を 15 日間投与したところ発赤、圧痛、硬結は軽快した。

症例 6 は壊疽性膿皮症の二次感染例で、本剤を 4 日間投与したところ症状は若干改善し、やや有効とした。

症例 7 は伝染性膿痂疹の症例で、本剤投与により滲出液は著明に減少し、膿痂疹は消失した。

症例 8 は基礎疾患に糖尿病がある慢性膿皮症の症例で、3 か月前に潰瘍を掻爬したが難治性となった。本剤

*〒113 東京都文京区本郷 7-3-1

Table 1. Clinical results of cefepime

Case no.	Age (y) Sex	Diagnosis (Underlying disease)	Severity	Status of disease at the beginning of the treatment	Antibiotics before treatment	Cefepime		Surgical procedure before treatment	Organisms		Bacteriological response	Clinical efficacy	Side effects	Abnormal laboratory data
						Daily dose (g × times)	Duration (days)		Before After	MIC (μg/ml)				
1	26 M	secondary infection	mild	aggravated	OFLX	0.5 × 2	5	none	ND ND	—	unknown	excellent		
2	23 M	secondary infection	moderate	stationary	OFLX CXM-AX	1 × 2	9	none	<i>S. haemolyticus</i> —	0.78 —	eradicated	excellent		GOT ↑
3	56 F	secondary infection (lymphosarcoma)	moderate	aggravated	—	1 × 2	7	none	<i>S. aureus</i> (MRSA) CNS <i>E. aerogenes</i> <i>S. aureus</i> (MRSA)	>100 3.13 0.05 >100	partially eradicated	fair		
4	82 F	secondary infection	mild	aggravated	—	0.5 × 2	9	resection	<i>A. denitrificans</i> subsp. <i>xylosoxydans</i> —	25 —	eradicated	excellent		
5	63 M	secondary infection (Tcell lymphoma)	moderate	aggravated	—	1 × 2	15	none	ND ND	—	unknown	good		—
6	20 M	secondary infection (gangrenous pyoderma)	mild	aggravated	—	0.5 × 2	4	incision	<i>E. aerogenes</i> <i>B. ovatus</i> ND	0.1 6.25 —	unknown	fair		
7	24 M	impetigo contagiosa	moderate	aggravated	CXM-AX	0.5 × 2	5	none	ND ND	—	unknown	excellent		
8	62 M	pyoderma (diabetes mellitus)	severe	stationary	—	1 × 2	26	none	<i>S. pyogenes</i> <i>S. aureus</i> (MRSA) <i>P. aeruginosa</i> —	0.025 >100 0.78 —	eradicated	excellent		

ND: not done MRSA: methicillin resistant *S. aureus* CNS: coagulase negative staphylococci
OFLX: ofloxacin CXM-AX: cefuroxime axetil

を26日間投与したところ投与5日目から発赤、腫脹が改善しはじめ、20日目には発赤が中等度残存するも、腫脹、圧痛は軽度となり、投与前の状態がかなり重か

ったことから著効とした。

対象患者8例での臨床効果は著効5例、有効1例、やや有効2例であった。

